

## 01 差別をなくす人になる（同和問題）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、山田としあきがお届けします。タイトルは「差別をなくす人になる」です。

公益財団法人「反差別・人権研究所みえ」の本江優子さんは、さまざまな差別問題の啓発活動や、小中高生に向けた人権に関する授業を行っています。

10

本江さんがこのような活動を始めたきっかけは、20歳の頃、付き合っていた人の家族から、被差別部落出身であることを理由に、結婚を反対されるという差別を受けたことでした。初めて部落差別に直面した本江さんは、「部落に生まれてきた私が悪いんだ」と生きる望みを失い、「どうして部落で私を生んだの」と家族を責めて傷つけてしまいました。そんなとき、「人権や差別について勉強してみたら」と声をかけられて、今の職場に就職しました。

15

【本江さん役】職場の人たちは、本気で差別をなくそうしている人ばかりで、「世の中にこんな人たちがいるのか」と衝撃を受けました。また、「差別は、差別する人がいるから起きる」という言葉にも出合いました。仕事をしながら、人権

20

【本江さん役】職場の人たちは、本気で差別をなくそうしている人ばかりで、「世の中にこんな人たちがいるのか」と衝撃を受けました。また、「差別は、差別する人がいるから起きる」という言葉にも出合いました。仕事をしながら、人権

や差別について学び続けて6年ほど経ち、「私が部落差別を受けているのは、私のせいじゃない」と心の底から思えるようになりました。今も差別に苦しむ人はたくさんいるので、啓発活動や講演を通して、差別をなくしていきたいと思っています。

（ナレーター）本江さんは人権に関する授業をするときは、みんなで考えることを大事にしています。

30

【本江さん役】授業では、「身近なところで差別が起きているとき、それを知った自分はどうするか想像してみよう」と聞いています。子どもたちの大半は、差別に気付いても見て見ぬふりをしたり、「私には何もできない」と思つたりすると答えてくれます。しかし、何もしないままでは差別はなくなりません。では、どうすれば差別をなくせるのか、みんなで一緒にワイワイ話し合つて、自分で考えるきっかけをつくりています。授業が終わると、子どもたちは「めつちや面白かった」と言いに来てくれます。人権は生まれてから死ぬまでずっと身近なことなので、楽しく学び続けてほしいと考えています。

35

（ナレーター）差別をされるために生まれてきた人はいません。「勇気を出して差別をなくす人になつてね。」本江さんは、今日も子どもたちに語りかけています。

40

（ナレーター）差別をされるために生まれてきた人はいません。「勇気を出して差別をなくす人になつてね。」本江さんは、今日も子どもたちに語りかけています。

45

2025年度「こころのオルゴール」

(本文  
942字)

2025年度「こころのオルゴール」